

## 那珂川NEWS

4

育てませんか あなたと私のWoodコミュニケーション

## 新年度のスタートにあたり

代表取締役社長  
大谷 知行

昨年度は、コロナ問題も一段落し脱コロナに向け社会全体が動き出した一年となりました。しかしながら、記録的猛暑や豪雨・大地震などによる自然災害、ロシア・ウクライナ戦争はじめ頻発する国際紛争の泥沼化、円安・ユーロ安に体感できない株高の中の物価高騰に加え、日本政治への不信感増大も重なり問題山積の一年だったとも言えるのではないのでしょうか？

私たちの業界においてはウッドショックの反動を引きずりながら住宅建築着工の低迷(特に、持家の不振)が追い打ちをかける形で厳しい事業運営を強いられる一年となりました。

このような経営環境の中、弊社では安定した非住宅木工事業(笠間事業所)や堅実なプレカスト事業(西原事業所)と既存事業(本市売り・つくば・建材・PC・ハウジング)が連携協力し一定のシナジー効果を発揮できた一年でした。

最後になりますが、今年度弊社では下記の「経営スローガン」の下、ともに働く仲間の異なる考えや経験を尊重し合うことで生まれるシナジー(相乗効果)を最大限に活かして、企業として着実に成長を遂げていくと同時に地域社会にも貢献し、持続可能なビジネスモデルを築いていく所存でございますので、皆様方には変わらぬご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## ■2024年度「経営スローガン」

こころを一つに 新たな一歩 踏み出そう！

## &lt;経営理念&gt;

わたしたちは、ベストパートナーを目指します

①茨城木材で働くすべての人が豊かな企業人生を歩むために

②大切な取引先の幸福と地域社会の発展に貢献するために

## &lt;行動理念&gt;

① わたくしは仕事の上で

ことのよいわるいにとらわれず  
事実を示します

② とともに話し合い とともに気づき とともに決定し とともに行動する

「日刊木材新聞」令和6年3月21日号より  
せりの売上げを復興支援に

## 輸入材値上がりで売上高1億円

茨城木材相互市場(茨城県水戸市、大谷知行社長)は3月13日、決算謝恩会(茨城県産材推進協議会協賛)を開き、買い方など50人が参加した。3月中旬時点での販売状況は2月同期より回復しており、4月から非住宅関係も動き出してくる。同社でも輸入材の荷動きが良くなり、値上げが通っている。今回は推進協と連名で「能登半島地震の災害義援金せりコーナー」を設けた。今回市では目標の1億円を売り上げた。災害義援金せりコーナーでは、推進協所属の製材など17社が約0.5立方メートルずつ出品し、全量売れた。合計約10立方メートルの売上金額75万円と、同市の手数料を復興支援金として全額寄付する。銚田樹一推進協会会長は「木材業界で復興支援の動きを広げ、被災地を応援したい。茨木を起点に近県でも始まれば、全国に広がる可能性がある」として、せりコーナーを設置した。

大谷社長は「2023年度は厳しい経営環境だったが、21期連続黒字決算を迎えられそう。来年は創立70周年を迎え、先輩たちの築いた歴史と伝統を守りながらも将来に向けて果敢に挑戦していきたい」とあいさつした。輸入材の品薄と値上がりで、同社でも2月からWウッドKD間柱の引き合いが強くなり始めた。3メートル×30×105ミリが7万5000円(市場渡し、立方メートル)前後で、30ミリが少ない。ロシア産アカ松タルキKD4メートル×30×40ミリのSグレードは9万5000円前後で売っている。市場全体の動きは依然として鈍く、国産材製品は間柱を除き地合いが緩い。来場した荷主は「羽柄の動きはいいが、角物が振るわない。今年は暖冬で丸太も凍りにくく、例年の冬より生産性も良かった。ただ4月半ばから仕事動き出しそう」と手応えが出てきた。(一部略)

■令和6年4月2日に、「茨城県産材推進協議会」銚田会長と弊社大谷社長(右記写真)並びに加藤事務局長で日本赤十字社茨城県支部にお伺いし「能登半島地震への災害義援金(80万円)」をお渡しして参りました。



## ■わたしたちの使命(SDGs)

(茨城木材の社会的役割)



「消費と生産を結ぶ価値ある架け橋」となる  
一循環型地域環境の創造

1. 地域の人々により良い『住環境』を提供すること
2. 茨城県の森林環境を守ること



	令和6年2月新設住宅着工				
	計	持家	貸家	給与住	分譲住
全国計	59,162	16,307	24,934	594	17,327
前期比	93.5%	88.0%	99.2%	94.8%	91.3%
茨城県	1,157	576	375	3	203
前期比	92.8%	88.6%	108.1%	43.2%	83.5%

県内市別の状況及びR4年度累計は弊社Facebookをご覧ください。

## ◆◆「花粉症の方」に朗報です！

岸田文雄首相は昨年5月30日に『花粉症に関する関係閣僚会議』を開き、約30年後に花粉発生量の半減を目指すことを発表しました。

これを踏まえ10月7日に美和木材協同組合と宮の郷木材事業協同組合を視察し「花粉症の発生源対策に集中的に取り組む必要がある」と語り、10月10日林野庁は、2023年度補正予算の概要を公表した(総額で1401億円)。「花粉症対策初期集中対応パッケージ」として、発生源対策、飛散対策、発症曝露対策の施策を制定しました。

(茨城県日立市の森林総合研究所 林木育種センターが開発の最前線です。)

### ■発生源対策として

#### (1)スギ人工林の伐採植替え等の加速化

本年度中に重点的に伐採植替え等を実施する区域を設定し、伐採面積を現行の約5万ha/年から10年後には約7万ha/年まで増加させるとともに、花粉の少ない苗木他樹種への植替え等を進めることにより、スギ人工林の減少スピードを約2倍にすることを目指す。

#### (2)スギ材需要の拡大

スギ材を活用した木造建築物の着工面積の増加、住宅分野におけるスギ材製品への転換の促進、大規模高効率の集材工場等の整備等を進めることにより、スギ材製品の需要を現行の1,240万m<sup>2</sup>から10年後に1,710万m<sup>2</sup>に拡大することを目指す。

#### (3)花粉の少ない苗木の生産拡大

花粉の少ない苗木の増産体制の整備を官民連携で短期的かつ集中的に進めることにより、花粉の少ないスギ苗木の生産割合を現行の5割から10年後に9割以上に引き上げることを目指す。

#### (4)林業の生産性向上及び労働力の確保

林業労働力の減少が見込まれる中、意欲ある木材加工業者等による高性能林業機械の導入を促進するとともに、他産業との連携等を進めることにより、10年後も、過去10年と同程度の生産性の向上及び現在と同程度の労働力の確保を図る。

### 昨年の閣議決定を踏まえ

『政府はR6年2月1日、花粉の発生源となるスギ人工林の伐採や花粉飛散の少ない品種への植替えを集中的に進める重点区域として、県庁所在地から50キロ圏内にまとまった人工林がある地域を複数指定すると発表した。都道府県と調整した上で、東京や大阪など人とスギが多い都市部を中心に指定する方針だ。』

重点区域での伐採面積は、全国のスギ人工林の約2割に相当するという。政府は昨年、伐採面積を現在の年約5万ヘクタールから10年後には約7万ヘクタールに増やす目標を掲げた。』 (文責:安島)

以上を踏まえ

**30年後にはくしゃみのない世界に**

**期待したいですね！**

## トピックス

### J-クレジットを買う製材工場

最近、J-クレジット関連のニュースを目にする機会が増えた。山林事業者がクレジットを創出した、創出したクレジットを産業界へ販売した、というニュースが多いが、製材工場や木工会社がクレジットを購入した、というニュースもあった。

言うまでもなく製材工場や木工会社は原料として木材を仕入れ、加工して販売している。仕入れた原料代金の一部は森林整備費用に当てられ、CO<sub>2</sub>を吸収する山林を育てる。生産した製品は建築物や日常の用に供され、炭素の長期固定に寄与している。いわば、事業活動そのものが脱炭素化に貢献しているわけだが、そのうえクレジットを購入するとはどういうことか。

山林経営でJ-クレジットを創出、販売している栃毛木材工業(栃木県)は、SBTに登録して自社のCO<sub>2</sub>排出削減に着手した。同社では2022年に2400トンのクレジットを創出する一方、素材生産、製材、チップ加工までの一連の事業活動で年間1802トン(23年6月期実績)のCO<sub>2</sub>を排出している。SBTではこれを30年までに42%削減する目標を掲げた。

同社の関口弘社長は「J-クレジットの販売先は各社ともSBTの削減目標に向けて取り組んでおり、クレジットを売る立場として自社でも取り組まないわけにはいかなかった」と語る。脱炭素化に貢献する木材産業が炭素の排出に無頓着ではいけないという考え方で、クレジットを購入する製材工場の行為にも、あるいはこうした考えが背景にあるのかもしれないと遅ればせながら気付かされた。

「SBTの認定企業のなかには仕入れ先に対しても排出削減の目標設定を求めるケースがあり、木材、チップの販売でも遠くない将来に取引条件に加えられる可能性がある」と関口社長は指摘する。簡単に言えば、排出削減に取り組まない企業からの木材は買わない、という事態だ。

当然のことながら排出削減は大企業だけの課題ではない。木材業界は脱炭素化に貢献する木材の普及ばかりでなく、生産、流通過程で排出されるCO<sub>2</sub>の削減についても真剣に考える時期に来ている。

SGECなどの森林認証は東京五輪で盛り上がりを見せた後、鳴りを潜め、認証を返上した業者も少なくない。ただ、ホームセンターのなかには認証を取引条件とする会社もあり、認証がないと売れないという販路も一部には出てきた。

脱炭素化の流れが木材産業をどう変えるのかは現状では見通しにくい。J-クレジットは資金不足の山林経営の助けになることが期待されるが、木材産業が自らの排出削減にどう取り組むのかはこれからの課題だ。使用する電力の再エネへの切り替えやガソリン車からハイブリッドカー、EVへの切り替えなどの対応が今後、業界でも進むのかどうか注目される。(ギター)

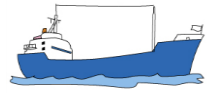
日刊木材新聞 令和6年2月21日号「時評」より

SBT(Science Based Targets)とは、パリ協定が求める水準と整合した、5年~10年先を目標年として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標のこと。

# 輸入材コーナー 外材 3月基準相場

e-mail : gaizai@ibamoku.co.jp

## 概況



品名	規格	基準相場
桧防腐土台	4.00 × 9.0 × 9.0	95,000
	4.00 × 10.5 × 10.5	95,000
	4.00 × 12.0 × 12.0	95,000
米樺 内地挽 KD	4.00 × 9.0 × 4.5	110,000
	4.00 × 4.5 × 4.5	110,000
米松 KD	4.00×9.0/10.5/12.0	110,000
米松 KD	3.00/4.00×15.0~27.0	85,000
米松 KD	3.00/4.00×30.0~36.0	90,000
RW 集成	3.00/4.00/5.00/6.00×450 迄	95,000
赤松 垂木	4.00×4.0×3.0	115,000
赤松 胴縁	4.00/4.5×15/18	110,000
WW 間柱	3.00/4.00×120×30/45	85,000
	3.00/4.00×10.5×30/45	85,000

3月に入り構造材や羽柄材の荷動きは低調な荷動きとなっています。国内では、ロシア材の荷動きが注目されています。東京木材埠頭のロシア材の在庫量は1万5千m<sup>3</sup>と今までに無い少なさとなっています。要因として戦争の影響が大きく、機材不足や丸太の出材も少なく、国内製材メーカーは原板を手当するのも難しい状況となっています。木材埠頭の1万5千m<sup>3</sup>のほとんどが販売済の製品となりますので、販売できる在庫はこれから入荷してくる製品となるでしょう。欧州材に関しても品薄状況が続いていましたが、今月に入り入荷も増えてきましたので若干の落ち着きを取り戻すと思われます。(神)

## 建材コーナー

e-mail : kenzai@ibamoku.co.jp

### 合板市況 2024.4

T2(F4)2.3	3×6	1,430	→	ラワン構造用 (輸入)	9 ｼ	2,340	→
T1(F4)3	3×6	1,670	→		12 ｼ	3,050	→
T1(F4)4	3×6	1,720	→	針葉樹	9 ｼ	2,100	↑
T1(F4)5.5	3×6	1,880	→	針葉樹	12 ｼ	2,450	↑
輸入 JAS	3×6	2,540	→	針葉樹	24 ｼ	4,900	↑
塗装 (ウレタン)	2×6	2,190	→	針葉樹	28 ｼ	5,350	↑
	3×6	2,680	→				

(注)建材コーナーのみ工務店価格となっております。

## 概況

針葉樹合板につきましては、このところ価格の下落が続いておりましたが、4月からは更なる減産と物流コスト上昇に備え、各メーカーともに値上げとなりそうです。決算期には一部、採算割れの安値売りの動きもあったものの、依然として住宅受注の伸び悩みや需要の停滞感があることなどから、プレカット工場向け住宅メーカー向けともに様相眺めとなっております。今後は値上げが浸透できるのか展開を注意して見て行く必要がありそうです。

輸入合板につきましては、現地では値上げを唱えています。円安為替によって先物製品のコスト高が続いており、入荷量が増えず、アイテムによっては時間のかかる製品もありますので、早めの問い合わせをお願い致します (関)

## 今日の一言

二言?



モチベーションは  
諦めから生まれる

by 出口 治明

実業家(ライフネット生命創業)・大学学長  
「現状をリアルに受け入れること」が大切



自分が打てるボールを  
選択して振る

by 大谷 翔平

MLB(ロサンゼルス・ドジャーズ所属)

「シンプルだけどなかなか出来ないこと  
そしてそれを継続することが大事」と続く。



積み重ね

積み重ねても

また積み重ね

by 内藤 多伸

日本の耐震建築の創始者

「耐震構造理論の生みの親」と言われている。



# 本社 3 月 基 準 相 場

e-mail : mokuzaibamoku.co.jp

品名	規格	グリーン材基準相場		KD材基準相場	
		特等	1等	特等	1等
杉正角	3.00×9.0×9.0	40,000	35,000	72,000	
	10.5×10.5	45,000		65,000	B品 45,000
	12.0×12.0	42,000		60,000	B品 40,000
	4.00×9.0×9.0	45,000	36,000	85,000	
	10.5×10.5	45,000	36,000	80,000	
	12.0×12.0	45,000	36,000	75,000	
	6.00×12.0×12.0	100,000	上小 180,000	135,000	
	7.00×12.0×12.0	110,000	上小 200,000	165,000	
杉平割	3.00×10.5×3.0/4.5	58,000		70,000	
	3.00×12.0×3.0/4.5	58,000		65,000	
	4.00×10.5×3.0/4.5	58,000		80,000	
	4.00×12.0×3.0/4.5	58,000		75,000	
桧正角	3.00×9.0×9.0	60,000		80,000	
	3.00×10.5×10.5	70,000		80,000	
	3.00×12.0×12.0	70,000		75,000	
	4.00×9.0×9.0	75,000		95,000	
	4.00×10.5×10.5	75,000		90,000	
	4.00×12.0×12.0	75,000		85,000	
	6.00×12.0×12.0	140,000	上小 250,000	165,000	
	7.00×12.0×12.0	200,000	上小 300,000	235,000	
杉平割	3.65×4.0×3.0	60,000	モルダ-	4m 85,000	
巾板	3.65×4.5×1.4	58,000	48,000	4.00×4.5×1.5	90,000
	3.65×4.5×1.8	58,000		4.5×1.8	90,000
	9.0×1.4	55,000	45,000	9.0×1.5	90,000
	9.0×1.8	58,000	45,000	9.0×1.8	90,000
	10.0×1.4	58,000	45,000	10.0×1.4	90,000
杉板	3.65×15.0~21.0×2.4	53,000		4.00×21.0×2.4	80,000
	1.82×15.0×1.2	38,000		〈杉本実目透加工板〉	
小割	3.65×3.0×2.4	60,000	35,000	3.65×10.5×1.2	特等 束 6,000
杉瓦棧	3.65×1.8×1.8	本 80			ム上小 束 9,000

## プレカットコーナー

3月のプレカット工場の稼働状況としましては、各工場とも例年より低調な動きとなっております。4月も同様の動きとなりそうです。

しかし、3月に入り見積の入状況としましては改善傾向にあるので今後に期待です。

4号特例改正、省エネ基準の適合による住宅ローン減税のお問い合わせが増えており、お問い合わせにも順次対応しておりますので、不明な点がございましたらご連絡ください。(明)

## 木材市況

3月に入り、新築物件の減少により構造材の動きは低調でした。しかし、羽柄材や杉KD間柱材(4m、3m)には活発な動きがありました。原木の出材は、寒切りの丸太が少なくなっており、引き合いが強く、相場も高値安定しています。そのため、KD材やグリーン材の製品単価も維持されています。3月13日に開催された「決算謝恩市」では、多くの買い方様からご購入いただき、心より感謝申し上げます。県産材協議会主催の能登半島地震災害義援金コーナーも盛況で、商品は全量販売いたしました。(加)

## 〔市日予定〕

〈 本 社 〉

4月16日 (火) 記念市  
13:00 せし開始

〈 つくば 〉

4月11日 (木) 記念市  
4月25日 (木) 記念市

公式 SNS にて最新情報をお届けします！是非ご覧下さい！

Instagram



Facebook

